

# 担い手の確保と育成支援

## ねらい

阿南管内の令和2年（2020年）の「基幹的農業従事者数」は、3,170人と5年前に比べ58人減少し、この内65歳以上が2,542人（80%）となっており、農業従事者の人口減少及び高齢化が深刻となっている。農業を地域の基幹的な産業として維持・発展させるためには、担い手の確保及び育成が急務となっている。そこで、当センターでは、新規就農者の受け入れ体制を見直すと同時に、就農前から就農後にかけてのステップにあわせた細かな伴走支援を行い、新規就農者の確保、育成について取り組んだ。

## 活動地域・対象

活動地域：阿南市 那賀町  
対 象：新規就農者・就農希望者

## 普及活動の目標

- ・毎年新規就農者5名確保
- ・地域が一体となった新規就農者の支援体制づくり
- ・新規就農者の就農までの伴走支援及び技術習得支援

## 目標に向けた活動概要

### （1）新規就農者をサポートする地域づくり「農の里」

加茂谷元気なまちづくり会では、地域ぐるみで移住就農者を受け入れる活動が行われている。その活動を参考に、三者（市町・JA・支援センター）で構成される「阿南・那賀未来の農業づくり協議会」を設立し、主体的に地域で新規就農者を支援する受け皿として、「農の里」づくりを提案した。「農の里」事業では、令和元年度から、「ゆず（木頭地区）」、「ケイトウ（相生地区）」、「キュウリ（阿南北部地区）」「ハウスすだち（加茂谷・桑野）」の里づくりを推進することとし、新規就農者を受け入れる産地づくりを順次実施した。

### （2）就農までの伴走支援

#### ① 新規就農相談

随時新規就農相談を行い、青年等就農計画作成の指導等を通して、自分のやりたい農業の具現化を支援した。また経営開始時の早期の経営確立や機械・施設等の導入支援として、「経営開始資金」、「経営発展支援事業」の支援を行った。

#### ② 農業技術習得支援

新規就農相談を行う中で、農業経験が無く専門知識が乏しい人や、実際に現場を見たことがない人が多くいた。そこで、新規就農前後の人を対象に、就農に必要な基礎知識習得支援として、「けんなんニューファーマー育成講座」を行った。また農業簿記相談講座を実施し、就農者の経営技術の習得及び確定申告書類の作成支援を行った。技術面については、実際に生産者のところへ行き、実践的な技術ノウハウを学ぶ「トレーニングファーム」を実施し、早期の新規就農者の技術習得を図った。

### （3）就農後の育成及び経営発展に向けた支援

#### ① 親方制度及び青年農業者の仲間づくり

就農後、同じ品目のベテラン農家を親方とし、マッチング及びマンツーマン指導を行える体制を整え（親方制度）、新規就農者の育成及び経営安定支援を行った。また、新規就農者の集まりである「アグリーズ」への参加を促し、青年農業者の仲間づくりの後押しを行った。

#### ② 経営発展に向けた支援

就農後、経営が軌道に乗りはじめた生産者については、随時相談を行い、補助事業・制度資金の活用の提案や、農業経営相談所の利用による専門家派遣の活用を通じて、規模拡大や法人化の支援を行った。

## 普及活動の成果

### (1) 新規就農者をサポートする地域づくり「農の里」

「農の里」事業による、市町、JA、支援センターの3者会を毎月開催することで、綿密な連携をとり、新規就農者の指導、情報共有を行うことができ、新規就農者の受け入れ体制を強固にした。また、「キュウリ（阿南北部地区）」では、ベテラン農家を中心に、地域ぐるみで新規就農者を受け入れる産地となっており、令和4年で2名、令和5年で2名新規就農している。その他にも、「ゆず（木頭地区）」、「ケイトウ（相生地区）」、「ハウスすだち（加茂谷・桑野）」でも新規就農者を獲得しており、地域での受け入れ体制が整えられた。

### (2) 就農までの伴走支援

阿南管内での新規就農者は、図1のとおりとなっており、令和5年度から7年度にかけて16名であり、多くの新規就農者を受け入れることができた。「けんなんニューファーマー育成講座」、経営開始資金受給者数及び経営発展支援事業受給者数は表1のとおりである。いずれも各年多くの方が受給している。これらの就農前から就農後にかけての綿密な指導を、地域で総合的にサポートした結果、就農後の就農定着率は、平成29年度からこれまでで87%と高い値となっている。

### (3) 就農後の育成及び経営発展に向けた支援

親方制度及び専門家派遣件数は表1のとおり実施しており、その結果、親方制度により新規就農者の早期技術習得及び安定経営を図ることができた。専門家派遣では、個人から法人化相談や、農事組合法人からの経営相談等に対して、専門家を通じた適切な対応ができた。また「アグリーズ」では、会員の交流会の開催により、青年農業者どうしの懇親及び意見交換等の場となった。

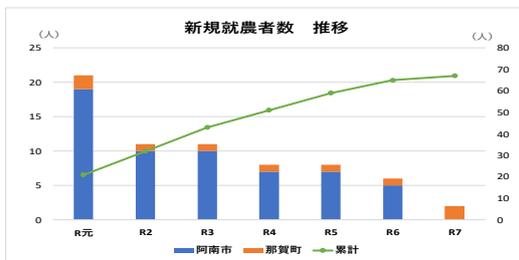


図1： 新規就農者の推移

表1：事業・制度活用者数

	R4	R5	R6	R7（見込み）
ニューファーマー 修了者数	10	12	6	9
経営開始資金・次世代 受給者数	47	40	34	21
経営発展支援事業	4	2	1	0
親方制度	14	17	19	13
専門家派遣 (R5～)		5	6	1



写真1 ニューファーマー 育成講座



写真2 トレーニングファーム



写真3 三者会

## 今後の発展方向

今後とも関係機関・産地一体となって、新規就農者の確保、育成支援を継続していくとともに、新規就農者が地域の中心経営体になるよう、認定農業者への支援を行っていきたい。

## 関係者からの声

- 新規就農者支援については、新規就農者育成総合対策の対応と合わせ、親方制度等の導入が図られ、JA・市町・県の三者の連携により順調にサポートができています。（市町関係者）
- 親方が随時、巡回・指導を行ってくれるおかげで、気軽に相談を行うことができ、技術の向上につながっている。（新規就農者）

## 阿南農業支援センター

連絡先：徳島県阿南市富岡町あ王谷46 tel：0884-24-4182